

『 真誠グループ SDGs宣言 』の制定について

株式会社真誠は、国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」に賛同し、SDGsの達成に向けた取り組みを強化するため、「真誠グループSDGs宣言」を制定しましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

宣言の公表により、SDGsを社員、お客様、お取引先、地域社会などのステークホルダーに広げ、持続可能な社会の実現に向けた活動を実践していきます。

記

1 真誠グループSDGs宣言

人も地球も、健康に生き続けられる食のあり方を追求し、すべての人が笑顔で暮らせる社会をつくる。

真誠グループは、ミッションである「健康文化を世界に広げ、社会に貢献する。」のもと、「すべての人を笑顔にしたい」という信念を社員の一人ひとりが持ち、人も、地球環境も健康に生き続けられる食を追求し、すべての人が笑顔で暮らせる持続可能な社会の実現に貢献することを宣言します。

2 制定日 2022年7月28日

SDGsとは、

持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)のことであり、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された国際目標です。

17のゴールと169のターゲットから構成され、2030年までに持続可能で「誰一人取り残さない」より良き世界を目指しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





人も地球も、健康に生き続けられる食のあり方を追求し、
すべての人が笑顔で暮らせる社会をつくる。

2022年7月28日
株式会社 真誠
代表取締役社長 富田 博之

重要課題

取組方針及び具体的な取り組み

関連するSDGs

環境への取組

食品ロス削減

生産やサプライチェーンにおける食品ロスの削減を推進します。

- 生産過程における原料ロスの削減及び歩留りの向上による食品廃棄物発生量の削減
- ごまの生産過程で生じる残渣の飼料・肥料としての再資源化
- 賞味期限の延長による事業内及び家庭内食品ロスの削減
- 関係企業との情報共有による在庫最適化の推進



資材ロス削減

生産から流通のプロセスで発生する資材ロスを削減します。

- 包装資材の廃棄物発生量の削減
- 関係企業との情報共有による梱包資材の見直し



環境に配慮した食品生産

電気エネルギー及び水資源の利用効率向上により、脱炭素社会の実現に向けて取り組みます。

- 全社照明のLED化、工場内の人感センサー設置などによる電気エネルギーの利用効率向上
- 工場の排水及び排煙の濾過・浄化を徹底した環境に負荷を与えない生産活動の推進
- 節水仕様の洗浄機導入などによる水資源の利用効率向上



社会への取組

国内外の子ども支援

途上国への食料支援活動を行い、貧困や飢餓の撲滅に取り組みます。

- 国際連合世界食糧計画WFP協会を通じた学校給食支援や家庭への食料配給支援
- 子ども食堂との協働による食支援活動の推進

未来を担う子どもたちへの食育活動を推進し、心と体の成長支援に貢献します。

- 食の大切さや楽しさを学べる食育プログラム「ごますり体験」の推進



健康価値の追求

健康に配慮した製品の提供を通して、安全、安心な食の健康文化を広めていきます。

- 機能性表示食品や栄養機能食品などの製品開発の推進
- 健康に寄与する製品の病院食や学校給食などへの提供
- 大豆たん白など新素材を活用した製品開発の推進



産地との共生

環境負荷を低減した製品の提供を通じて、ごまの産地の農業及び生産者の生活の持続可能な発展に貢献します。

- フェアトレード認証ごま製品の普及による生産者の支援
- 有機認証ごま製品の普及による土壌への環境負荷低減の促進



食の安全と安心

食品の安全と品質に関する予防及び監視により、安全・安心な製品を提供することで、ステークホルダーとの信頼関係の構築に努めます。

- FSSC22000認証の遵守 (株式会社真誠インダストリアル・パーク 関ヶ原工場・名古屋工場)



経済への取組

ごまの新たな価値の創造

ごまの可能性を求めて研究を進め、社会的意義のある新たな価値の創造に取り組みます。

- バイオテクノロジーによる先例のない新たな特性を持つ品種の作出、生産者と消費者にとつて付加価値の高いブランドごまの製品開発の推進
- 廃棄物や未利用資源の活用を目指す研究及び得られた知見を用いた製品開発の推進



働き方と多様性

働きがいの向上や生活の充実感を感じられる職場環境づくりに取り組みます。多様な人材がやりがいを持って働き、活躍できる社会の実現に向けて取り組みます。

- 障がい者、高齢者、外国人の雇用機会創出
- 育児休業の制度利用推進
- 有給休暇の取得推奨

